

術後チェックリストの作成について

発表者 宇留賀 咲 恵

耳鼻咽喉科一同

はじめに

術後合併症の早期発見と予防と、より効果的な治療看護の記述の合理化と省力化を目的としてチェックリスト作成の動機としました。

- ① 術後患者の看護はまず、その観察からスタートする。観察によって得られた情報は看護上重要なデータとなるので第一に科学的なものではなくてはならない。
科学的であることは、実証的、合理的である必要がある。このため系統的観察法をもって各項目をチェックすれば、より容易に目的を果すことが出来る。
- ② チェックリスト使用によりナースの経験差による、看護濃度の不均衡を是正し、看護者独自の 카테고리より脱皮し、全て網羅された、リストを用いる。安心感は不必要な精神的、肉体的、かつ時間的な浪費を省き、全ての術後患者に均等な濃厚看護を提供することが出来る。
- ③ 従来 of 文章表現による看護記録の形態では個々の記録技術もまちまちであるため、患者の変化の状態を正しく記述することが困難であったが、このリストの使用によって、この問題を解決し、看護業務の引継ぎ、医師への報告等の冗長な時間が短縮される。
- ④ 看護学生への実習指導の円滑と看護実績の高揚を計る。

研究方法

a、チェック項目の決定

先づ手術部位により分類された4チームを構成し各チームにおいて項目の抽出をはかり、合同カンファレンスにより、術後患者の看護上最も重要、かつ必要性のある項目に絞り決定する。

⑤ 48項目中18項目を抽出し残項目はその他欄に必要なに応じ記入する。

- (1) 基本的観察項目 (5項目)
- (2) 全身麻酔後の観察項目 (4項目)
- (3) 局所的観察項目 (5項目)
- (4) 全身管理項目 (3項目)
- (5) 患者自身の自覚的訴求項目 主訴

b、リストの構成

- (1) リストの本質に基き、各項目を系統的ブロックに分類し観察の順序及び記録の容易性に充分留意し試表Iを得る。

(ロ) 用紙の大きさは A 4判を用い製本及び保管が容易な為入院カルテと同一のサイズを用いた。

実 施

実施適応の対象は全身麻酔下手術全般と側頭骨領域(中耳、内耳)副鼻腔手術等

適応外……鼻内手術 扁桃摘出、アデノイド切除、その他

記入は手術当日チームリーダーが前もって記載出来る項目は記入し、B面は患者病室と同時に受持ちナースによって観察チェックが開始される。

術式及び患者の一般状態により不要の項目は記入しない。記入方法は従来通り日勤では青インク、夜間は赤インクを用い記録責任者はサインする。

試表 I より試表 II への改良

A面第 I ブロック時間～終了を

試表 II では時間～病室時間に改めている。

出血の項の下へ輸血欄を加えている。

○第 1 ブロックでは手術中の患者の状態を的確に把握し看護上の指針を得る。

A面第 2 ブロック

試表 II では止血剤鎮痛剤を一括してその他でまとめ、麻酔医指示欄を増設している。

○第 2 ブロックでは、医師による術後の治療看護に対する指示を明確に知る。

○第 3 ブロックは、術後看護管理に必要な事項を示している。

A面第 4 ブロック

欄外に記入されていた血液型をコーナーに入れる。

○第 4 ブロックでは、患者自身の特異性など特記すべき事項をのせ看護上の安全対策に役立てる。

B面 観察項目

B面補液の項をひろげ、注射補液に改めている。

結 果

試表 I の使用状態の分析

○記入もれが多い ○観察項目が充分活用されていない。 ○記入すべきか否か、又どの項目に入れるか、分類された項目等の疑問について、5回にわたるカンファレンスをもち試表 II が作成された。

このようなチェックリストによる観察時間を従来通りの文章表現で行う方法と比較するとき、17分必要としたものが約3分の1の5分間に短縮された。

これはメモ不要による観察と記録の同時性によるものと思われる。このように科学的合理的に処理された、術後管理は充分な看護力となって患者に好ましい予後を選元することが出来る。

お わ り に

各ベースが小さく詳細な記録が望めない欠点は極力符号化し記入項目についても可動性をもった、立体的なチャートを考案してより詳細な観察記録をつくってゆきたいと考えている。

又、B面のみを独立させた用紙を作成し重篤患者などの経過観察に利用しようと思っている。

心よく資料を提供して下さった第1外科、第2外科、婦人科病棟の皆様と術後管理について御講演下さった麻酔科小田切先生に深謝申し上げます。

術後チェックリスト

①

②

③

④

A	氏名	①													② 申し送り事項				③ 手術室からの装着器		④ 特記事項			
	術式														麻酔医指示				主治医指示		血液型			
	安静度														補液									
	時間	開始												帰室										
	麻酔	全												局	抗生物質									
	出血量															その他								
	輸血量	生												保										
B	月/日	時分	P	BD	R	T	顔色	意識	嘔吐 嘔血	喘鳴	排泄	出血	腫脹	疼痛	吸引	主訴	めまい カニューレ管理	耳鳴	神経麻痺	補液注射	O ₂	水分等摂取	その他	
	/	/																						
	/	/																						
	/	/																						
	/	/																						
	/	/																						
	/	/																						
	/	/																						
	/	/																						
	/	/																						
	/	/																						
	/	/																						

試表(1)

試表 (一)

① 術後チェックリスト

③ 血液型

安静度		申し送り事項													特記事項						
A	氏名	注 射	止血剤		手術室からの装着品																
	術式		鎮痛剤																		
	時間		抗生物質																		
	麻酔		補液																		
	出血																				
月/日	時分	P	BD	R	T	顔色	意識	嘔吐 気管 挿入	喘鳴	排泄	出血	腫脹	疼痛	吸引	主訴	めまい耳鳴神経麻と カニューレ管理	補液	O ₂	水分等摂取	その他	
/	/							/													

15-B